



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.hoyukai.org/>

第159号

発行:2019年7月15日

発行責任者:

特定医療法人社団 鵬友会

今年 前半を振り返って

～ 働き方改革に思うこと ～

新中川病院 事務部長 福島 洋平



2019年も上半期が終わり、今年も残すところあと160日程。これから迎える夏本番を前に、前半戦を少し振り返ってみようと思います。主なトピックスはやはり5月の天皇即位に伴う元号の改正でしょうか。時代も平成から令和へと変わり、昭和生まれの私ですが、青春時代を過ごした平成が終わってしまったことになんとなく寂しさがあり、改めて時の経つ早さを噛みしめている今日この頃です。これから続く令和の時代はどのような時代になるのか。昨今のめまぐるしいAI技術等の進歩を考えると、良くも悪くも、今とは想像もつかないような世の中へと変貌を遂げていくのかもしれない。

もう一つ、事務部長の立場として気になるのが、今年4月から始まった『働き方改革』。これは将来的な人手不足に対処すべく打ち立てられた制度で、残業時間の上限規制や労働時間の客観的な管理、年5日の有給休暇の取得義務付け等、職員のライフスタイルを重視する内容が盛り込まれています。

2018年の診療報酬改定でも、医療従事者の負担軽減や業務の効率化・合理化を推進する内容がすでに取り上げられており、これから働く環境が大きく様変わりしていく状況の中、人事労務を管理する立場として、今後どのような展開をしていくのか非常に気になるところです。

当院では以前より、職員で組織されている業務改善委員会やリスクマネジメント委員会等が中心となり、業務上の様々な事由について、職員目線で問題提起から検討改善までを行い、業務改善へと繋げる体制が整っています。これは一例ですが、結果として職員一人ひとりが高い意識を持って担当業務に取り組んでくれており、そのおかげで現状、時間外労

働もほとんどなく効率的な業務管理が出来ていると実感しています。

しかし、効率化・合理化といって割り切ってしまう考え方だけでは、働き方改革は上手くいかないとも思っています。当院は主に終末期の患者様をケアする療養型病院であるため、入院期間はどうしても長期となり、患者様やご家族様にとってそこは生活の場となります。いくら最新のシステムを導入して業務管理しても、最終的には人対人。安心して最期を迎えられるよう、苦痛のないケアをする為の何気ない気配りや普段の声掛けといったことが何より大切だと思うのです。そして、それは必ず相手に伝わりますし、当然相手に伝われば自分自身も嬉しくなり、やりがいを感じるはずで、このことは上司や部下、同僚といった人間関係でも全く同じで、例えばこれからは働き方改革によって休む機会は増えますが、業務を誰かに頼む時は、「ありがとう」とか「どういたしまして」など言葉を発し、お互いに気持ちよく仕事をするためのコミュニケーションをとることが非常に重要となります。このやりがいやコミュニケーションによる良好な関係性がないと、折角の働き方改革も絵に描いた餅となってしまふと感じています。

最後に、この働き方改革は必然かもしれませんが制度化して義務的に行うことは果たしてどうなのかと、些か複雑な心境ではあります。が、これも昭和生まれの古い考え方なのかもしれません。直面している人手不足の問題はすぐには解決しないでしょうが、今後も『平成』のように時代遅れとなってしまうわぬよう、世の中の流れにアンテナを張り巡らし、病院のため、職員のための最善手が打てるように精進していきたいと思います。

第16回 医療法人社団鵬友会 幹部研修会



池島 理事長

令和元年7月19日、箱根ホテルの会議室に鵬友会の幹部職員68名が参集し幹部研修会が開催されました。開会の挨拶では、池島理事長が「本日の研修会は、初めに池島常務理事より【管理者の役割・心得】の話がありますので、管理者としてしっかりと学んでもらいたい。そして、第2部として、地域包括ケアについて4名の院長・施設長の話があり、その後、地域包括ケアについての情報を皆さんとお互いに提供し合うことを目的に、今年はワークショップ形式を取り入れます。各院長・施設長や先生に前に出てもらい皆さまから質問を受付け、自分の施設では、こう考えていると答えてもらいます。皆さんは質問の準備をお願いします。」と述べました。



池島 常務理事

続く池島常務理事の講義では【管理者の役割・部下への禁句】をテーマに、管理者で最も大切な役割は〈部下のモチベーション管理〉であると述べ、そのための役割を7項目に分けて説明し、最後に部下への禁句を挙げ、幹部職員へ力説しました。

◆4名の院長・施設長からの講演とワークショップ

次に、4名の院長・施設長より地域包括ケアについての説明、そして、それに伴う各施設の取組みや方向性など、わかりやすく講演しました。講演後は、ワークショップを行い、会場から「フジヤマ病院は富士宮市の北部にありますので、看看連携や自治会・地域活動での移動距離、患者さんの通院による交通網はどうなっているのでしょうか。」「静岡県では、【シズケア・かけはし（医療、介護の専門職がICT（情報通信技術）を活用して情報を共有し、在宅療養する患者と家族を支えるシステム）】を県全体で構築を進めていますが、神奈川県ではそういったものはありますか。」「施設長や先生方から幹部職員に要望やご指示等はありませんか。」などの質問がでて、活発な会となりました。

その後の懇親会では、普段顔を合わせる機会の少ない他施設の職員との親交も深まり、非常に実りのある日となりました。

《講演者》 ※講演発表順



根本 院長



日野 院長



末盛 院長



藤田 施設長



ワークショップ



ワークショップ



会場全体